
高津君と困った守護霊と困った先輩

爆弾蛙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

高津君と困った守護霊と困った先輩

【著者名】

N4665D

爆弾蛙

【あらすじ】

報われない人間関係を持つ努力家少年のある朝。よくある朝の1コマです。

(前書き)

つたない文章ですが、楽しんで貰えれば幸いです。
よろしくお願いします

どうも、^{たかつだいすけ}**高津大輔**です。

この春、丘の上にある小尚高校に入学したばかりの15歳です。

突然こんなコト言われても困る？

確かに僕だってこまりますよ・・・

でもね、世の中案外もつと困るコトがあるんだよ。

そう・・・例えば、

『だ〜いすけ！新しい服欲しい〜』

今のセリフで、何人の人が、可愛い彼女が洋服をねだる様子を思い浮かべたのだろうか・・・
でも、現実は甘くない。てか、現実は小説より奇なりと言つた方が合つてゐる気がする。

何が言いたいかつていうと、この女の子は、断じて僕の彼女でもなければ、甘えん坊な姉や妹でもない。

『欲しいって・・・幽靈のお前に買えと？お金のムダだし、ヤダだよ』

そう彼女は幽靈なのだ。

まあ“なのだ”なんて胸張つて言つことでもないんですけどね。

『ムツ！大輔、ワタシをそこいらの幽靈と一緒にしないで欲しいな。ワタシは大輔のしゅごれいだよ』

なら一度でも、僕を輝先輩から助けてみるよ。

輝先輩とは、本名、倉野輝^{くらのひかり}といい、僕より一つ上で、女性の先輩。特徴は暴走列車を止める方が楽と思わされるほど。

だから、ホントに一瞬でも良いから輝先輩を止めて・・・

『う〜ん・・・それはムリかな。うん絶対にムリ。えへへ、輝先輩は止まらないよ』

「こつ、心読んだ！？」

『なに言つてるの？声に出てたよ？』

う、うかつ。うかつだよ僕。こんなお約束をやつてしまつなんて・・・

・
『あつ 地獄坂だね。』

「うん、わかってる」

『頑張つてね。』

地獄坂とは、小尚高校まで続く長い長い、これでもかってぐらいに長い上、傾斜角も結構ある。自転車や徒歩で行こうものならまさに地獄。

だから生徒のみならず先生までもがこの坂を地獄坂と呼んでいる。だからなのかは、分からぬが通勤通学用のバスが毎日出ているちなみに僕は毎朝自転車だ。

理由は聞かないで下さい。

正式名称は、確か・・・小尚坂だつたかな。
そもそも、そもそもだ。

この守護霊、初めつから守護霊の訳ではない。

そう、もとはひよんな時、僕の自転車に取り憑いた幽霊だったんだ。そこから糺余曲折あり、困った人をいじつて楽しむ悪癖のある人達の勝手のせいで、誰とは言わないけど、輝先輩とか、死神さんとか、神様とかのせいで、この守護霊は、ろくに守護も出来ない守護霊になつちやてくれた訳なんです。

怒りを半分ぐらいを力に変えた、ヤケクソパワーを使い坂を登りきる。

それと同時に、

『お疲れ様

囁くような守護霊の声。

コレが夜なら、正直ホラー以外の何モノでもない。

でも、今、それ以上に僕の背筋を震え上がらせる者がいます。

目の前に。

校門の前にいい！！！？

『あつ輝先輩～オハヨー～』ぞいま～す。今日もきれいですね

手を振るな。

声を掛けるな。

「ありがとう。想ちゃん。」

遅かった。

でも大丈夫。

集合時間の五分前だ。

「だいちゃん。遅い！！！」

『ご立腹！？！？！？何故に！？

「いい我が部にとつて集合時間の10分前が本当の集合時間よ」

そんな勝手な！？

でも、そんな身勝手さには、この人と関わる様になつてすぐに慣らされた。

慣れたのでは無く慣らされたのだ。

「はいはい、すみません。つで僕の朝一の仕事は何ですか？」

「あつ失礼なコト考えていた上に冷たい反応・・・まあいいわ。とりあえず今日は朝一で美味しいお茶が飲みたかったの。よろしく」

よろしくつてそん

『あつ大輔！！！ワタシ、服が欲しいの。覚えてる。今度デート行こ、デート』

「仲良いわね。一ヤ一ヤ」

お前つて奴はいらんコトをいらん時に・・・

『ねえ～ねえ～大輔～』

「だあ～！！！」

『大輔！？』

「大輔？」

『輝先輩！変なコト言わないでください』

「壊れた？」

ええいー。かのやつはやねぬよ。どうせ選択肢なんて無いだらうしね。

やらなきゃ私生活レベルで死ねるだろ。」

学校生活レベルでも死ねるだろうし。

おじで死んでもその先で、今おひ以上に使われるだらうな
神姫二 らつて頃邊。

支那の歴史

やるしかない。

五〇 賈愛——三

ଶାନ୍ତିକାନ୍ତିର ପରିଚୟ

5

(後書き)

初めて書いた小説を改めて短編化に挑戦したものです。
短編化はも初めての挑戦です。

腕もそんなに良いものでもないのでかなりつたない文章になつて
いるかと思います

厚かましいお願いかと思いますが、
ご意見、ご感想の方をいただけたら嬉しいです。
それを励みに頑張りたいと思います

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4665d/>

高津君と困った守護霊と困った先輩

2010年12月18日20時32分発行